

## 2. カリキュラム

### 2.1. カリキュラムのアウトライン

二年間の学科カリキュラムは、以下に示す4つの学びの領域を柱として構想を進めている。

- ①社会生活教育
- ②職業教育
- ③基礎学力教育
- ④基礎体力教育

これら4つの学びの領域の内容は以下の通りである。

図表 2-1 学びの領域

学びの領域	概要
①社会生活教育	自立した社会生活（家庭生活・職場生活・地域生活）を営む上で必要となる知識・技能を学び、基本的な態度を涵養する。
②職業教育	自立した職業人として就労する上で必要となる知識・技能を学び、基本的な態度を涵養する。
③基礎学力教育	国語や数学など、高等部までに学んだ内容も含めて基礎的な学力を高める。
④基礎体力教育	生涯に亘って、運動や日常の余暇活動を楽しむ上で必要となる身体能力や知識を身につける。

### 2.2. 科目構成 2018 年度版

各学びの領域を構成する科目（2018年度版）及びシラバス案を以下に示す。

図表 2-2 科目構成

①社会生活教育 科目構成	
社会生活	職場生活、地域生活、家庭生活それぞれの場面で必要となる基礎的な知識を学習する。
社会生活演習	社会生活のさまざまな場面の体験学習を通して対応する力を養う。
コミュニケーション	相手を理解し自分の考えや思いを伝える力を養う。

時事・社会	学校や家庭だけでなく、社会の動きやできごとへの興味・関心を高める。
コンピュータ	パソコンソフトとインターネットの操作・活用方法を学習する。

②職業教育 科目構成	
しごとと社会	世の中のしくみと仕事への理解を深め、しごとと自分を考える。
職業体験	職場訪問や就労体験等を通して、仕事や職場への理解を深め、しごとと自分を考える。
作業学習	会社の業務を学内で行う学習を通して、しごとへの理解を深め、しごとと自分を考える。
資格取得	就職に役立つ資格の取得のための内容を学習する。
キャリアと生涯学習	将来の自分を考え、そうなるための方法について学習する。

③基礎学力教育 科目構成	
基礎国語	日常生活を送る中で必要な日本語の「読み」「書き」を中心にじっくりと学習する。
基礎数学	日常生活を送る中で必要な数学の基礎をじっくりと学習する。
芸術表現	楽器演奏やデッサン・イラスト制作等を通して表現する方法を学習する。

④基礎体力教育 科目構成	
運動・スポーツ	運動や競技スポーツを通して、生涯に亘って健康な日常生活を送る上で必要となる基礎的な身体能力を養うと共に、身体を動かす習慣を身につける。
健康管理	自分自身の健康を保持、増進するための基本的な知識や生活習慣の実践について学習する。

図表 2-3 シラバス案

科目名	社会生活
時間数	180.0 時間
目標	職場生活、地域生活、家庭生活それぞれの場面で必要となる基礎的な知識を学習し、円滑な社会生活を送る上で必要となる知識基盤を形成する。
内容	1. 家庭生活 ●通勤・通学時の基礎知識

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お金と消費の基礎知識</li> <li>●お金の管理の基礎知識</li> <li>●ネット社会の基礎知識</li> <li>●健康な生活・生活習慣の基礎知識</li> </ul> <p>2. 職場生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場のマナーとルール</li> <li>●社会人の心構えの基礎知識</li> <li>●働き方の基礎知識</li> <li>●社会人のコミュニケーション</li> </ul> <p>3. 地域生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会の基礎知識</li> <li>●地域での暮らしのマナーとルール</li> <li>●様々な支援サービス・制度の基礎知識</li> <li>●障害基礎年金の基礎知識</li> <li>●社会参加の基礎知識</li> <li>●政治や行政（社会）と自分の関わりに関する基礎知識</li> </ul>
評価方法	<p>①定期試験</p> <p>②レポート</p> <p>③授業の出欠</p>

科目名	時事・社会
時間数	社会のできごと（時事）についての理解を通して、学校や家庭だけでなく、社会の動きやできごとへの興味・関心を高める。これにより、社会人としての基盤形成を図る。
目標	45.0
内容	<p>以下の各項目に関する社会のできごとについて解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○政治</li> <li>○経済</li> <li>○国際情勢</li> <li>○社会生活</li> <li>○自然・環境</li> <li>○文化・芸術</li> </ul>
評価方法	<p>①定期試験</p> <p>②レポート</p> <p>③授業の出欠</p>

科目名	コンピュータ
時間数	90.0 時間
目標	パソコンの基本操作、オフィスソフトの基本操作と活用方法、インターネットの基本操作と活用方法について学習し、仕事でパソコンを活用できる基本スキルを身につける。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンの基本操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>●パソコンの基礎知識</li> <li>●パソコンの基本操作（キーボード、マウス）</li> </ul> </li> <li>2. オフィスソフトの基本操作「ワープロ」 <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本操作</li> <li>●さまざまな文書の作成</li> </ul> </li> <li>3. オフィスソフトの基本操作「表計算ソフト」 <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本操作</li> <li>●さまざまな表とグラフの作成</li> </ul> </li> <li>4. オフィスソフトの基本操作「プレゼンテーション」 <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本操作</li> <li>●さまざまなプレゼンテーションの作成</li> </ul> </li> <li>5. インターネット <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本操作</li> <li>●電子メール</li> <li>●ブラウザ</li> <li>●検索エンジン</li> </ul> </li> </ol>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①レポート（作成した文書等）</li> <li>②授業の出欠</li> </ol>

科目名	しごとと社会
時間数	90.0 時間
目標	世の中にはさまざまな仕事があり、それらが互いに関連しながら社会が成り立っていることについて理解を深める。さらに、そのような社会に対して、今後自分がどう関わっていくかを考える。
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな仕事 <ul style="list-style-type: none"> <li>●モノをつくる仕事</li> <li>●モノを運ぶ仕事</li> <li>●モノを売る仕事</li> <li>●サービスを売る仕事</li> </ul> </li> <li>2. さまざまな仕事を調べる</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●メディアを活用した仕事の調査</li> </ul> <p>3. さまざまな仕事の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場見学</li> <li>●職場体験</li> <li>●職場座談会・講演会</li> </ul>
評価方法	<p>①定期試験</p> <p>②レポート</p> <p>③授業の出欠</p>

科目名	職場体験
時間数	60.0 時間
目標	職場訪問や就労体験等を通して、仕事や職場への理解を深め、しごとと自分を考える。
内容	<p>1. 職場体験のための基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場・仕事とは</li> <li>●職場体験の心構え</li> <li>●職場体験のマナーとルール</li> <li>●先輩による職場体験談</li> </ul> <p>2. 職場見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場見学（1日）</li> </ul> <p>3. 職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場体験（5日間）1年次</li> <li>●職場体験（10日間）2年次</li> </ul>
評価方法	<p>①レポート</p> <p>②授業の出欠</p>

科目名	キャリアと生涯学習
時間数	90.0 時間
目標	今の自分を見つめて自己理解を深める。自己理解に基づいて、将来の自分を考え、そうなるための方法について学習する。
内容	<p>1. キャリアとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●働くということの意味・意義</li> <li>●キャリア形成の基礎知識</li> </ul> <p>2. 自己理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自己理解とは</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己理解の目的</li> <li>●自己理解の方法と実践</li> </ul> <p>3. 将来設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●将来設計とは</li> <li>●将来設計の目的</li> <li>●将来設計の方法と実践</li> </ul>
評価方法	<p>①レポート</p> <p>②授業の出欠</p>

科目名	基礎国語
時間数	90.0 時間
目標	日常生活、職業生活を送る上で必要となる基礎的な国語力（読む力、書く力、聞く、話す力）を養う。
内容	<p>1. 基礎国語力「読む力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●駅や町の中の案内文を読む</li> <li>●商品カタログを読む</li> <li>●マニュアルを読む</li> <li>●作業手順書を読む</li> <li>●新聞を読む</li> <li>●文芸作品を読む</li> </ul> <p>2. 基礎国語力「書く力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今日のできごとを書く</li> <li>●今の想いを書く</li> <li>●手紙を書く</li> </ul> <p>3. 基礎国語力「聞く力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場の先輩の話を聞く</li> </ul> <p>4. 基礎国語力「話す力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職場の先輩に話す</li> </ul>
評価方法	<p>①各回の授業で作成するレポート・作文</p> <p>②各回の授業で実施する演習</p> <p>③授業の出欠</p>

科目名	健康管理
時間数	45.0 時間
目標	自分自身の健康を保持、増進するための基本的な知識や生活習慣の

	実践について学習する。
内容	1. 健康管理とは <ul style="list-style-type: none"> <li>●健康的な暮らし</li> <li>●生活習慣と健康・病気</li> <li>●健康管理</li> </ul> 2. 健康管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>●栄養バランスのとれた食生活</li> <li>●清潔な生活習慣と健康</li> <li>●ストレスと健康</li> <li>●飲酒・喫煙と健康</li> <li>●スポーツ・運動と健康</li> </ul> 3. 関連知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>●健康保険証の基礎知識</li> <li>●健康診断</li> <li>●病院・診療所の利用に関する基礎知識</li> </ul>
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠

### 2.3. 教材の調達・開発

カリキュラムの各科目で使用する教材の調達・開発は、以下の1～3を基本し指針として次年度の取り組みにおいて検討を進める。

○指針1：既存の市販書籍等の利用

学びの領域「③共通基礎教育」は基礎学力が中心であることから、指針1に基づき既存の市販書籍等からの最適な教材の選定・活用を基本とする。

○指針2：既存の市販書籍等と補強資料・教材等を組み合わせた利用

市販書籍等だけでは難しい・説明不足などの場合、それを学生向けにアジャストするための補強資料・教材等を追加する。（補強資料・教材は既存教材の利用または新規の制作とする）

学びの領域「①社会生活教育」の一部の科目は、健常者向けの既存教材だけでは難しい面があると考えられるため、補強資料等の追加を基本とする。

○指針3：新規開発

上記1・2いずれの方策が適当でない科目については、新規に開発する。

学びの領域「②職業教育」及び「①社会生活教育」の一部の科目については、知的障害者の職業教育に最適化された教材の新規開発を基本とする。

なお、「職業教育」の資格取得では、その一部において DVD 教材や e ラーニング教材等による在宅学習の導入も検討する。これは、限られた期間内での学習の幅を広げ、学生の可能性の向上を図ることが狙いだが、ここでは障害の程度や特性等を十分に考慮し、独習のみではなく必要な個別指導等のフォローアップも含め、無理がなく、かつ効果が見込める導入方法を検討する。

## 2.4. 指導支援ツール

次年度の取り組みとして、教員による指導を支援するツールとして、「学生カルテ」「指導ガイドライン」を整備する。「学生カルテ」とは、学生一人ひとりの成績や学習状況、指導履歴などを記録したもので、近年では個別指導に有効なツールとして導入している学校もある。これにより、障害の程度や学力、性格などに応じたきめ細かい対応・指導・支援に役立てていく。さらに、学科教員が「学生カルテ」で各学生の状況を共有し、教員が互いに協力し合いながらの指導・支援にも活用する。